

令和2年度 事業報告書

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

社会福祉法人

多可町社会福祉協議会

令和2年度 事業 報 告

令和2年度は、「第3次地域福祉推進計画」（平成28年度～令和2年度）に基づく取り組みの最終年度であり、評価・見直しの取りまとめを行い、第4次地域福祉推進計画に反映させました。

今年度は新型コロナウイルス感染予防対策のため、事業の中止等もありニーズに合わせて見直しや変更を行いながら進めました。各世帯へ生活支援に必要な指定収集袋（ごみ袋）の配布や新型コロナウイルスの影響を受け就労収入が減少して困っている世帯に対し、特例事業として米給付を行い生活支援としての取り組みを行いました。また、活動目標の重点活動「きづく」「つながる」について以下の3点の取り組みをコロナ禍の中で工夫して行いました。

1点目には、「きづく」「つながる」活動の重要性をさらに地域へ広げるために、集落に住む人同士の支え合いをすすめるため、話し合いの場の支援や啓発に努めました。

2点目には、近隣で気づき合える、支え合える関係づくりとして、多くの地域でふれあいきいきサロンが行われるよう、サロンスタッフ同士が情報交換できる場の開催やコロナ禍での感染症予防徹底、工夫をして気軽に集まれるサロンの開催支援や啓発に努めました。

さらに、3点目として、ふれあい型給食サービスや地域見守り訪問などの事業では、近隣のボランティアを派遣することで、より身近な関係で見守りができる体制づくりに努めました。

また、「ささえる」活動として、生活福祉資金（新型コロナウイルス特例貸付）、日常生活自立支援事業や一時的食糧等給付事業では、自立生活の支援と世帯の生活安定を図りました。

介護事業においては、利用者個々のニーズに合ったサービスを提供し、関係機関と連携を図ることで、在宅生活を支援することができました。

以下、令和2年度の各事業等について報告します。

基本目標 「みんなが安心して暮らせるまちづくり」

多可町社会福祉協議会では、地域福祉の推進を住民のみなさんと一緒に進めるため、基本目標を「みんなが安心して暮らせるまちづくり」と掲げています。

活動目標

基本目標を実現するために、4つの活動目標を設定しました。これを基に福祉活動を展開していきます。

- 【1】きづく（重点活動）
- 【2】つながる（重点活動）
- 【3】ささえあう
- 【4】ささえる

年次計画

基本目標と活動目標を進めるため、下記のこと取り組みを行います。

- 【1】 福祉学習の実施
- 【2】 啓発活動の充実
- 【3】 身近なボランティアコーディネート
- 【4】 ふれあいいきいきサロンへの支援
- 【5】 当事者支援
- 【6】 ちょっとした困りごとをみんなで解決していくような見守り支援体制の構築
- 【7】 ボランティアがしたくなる仕組みづくり
- 【8】 困り事や解決方法等を共有し、多くの地域で困り事が解決できる
見守り支援体制の構築
- 【9】 各種福祉サービス

■ 重点

■ 福祉学習の推進（活動目標1／きづく、活動目標3／ささえあう）

福祉に関心を持つてもらい、みんなが安心して暮らせるまちづくりを進めるため、ボランティアや当事者などの協力を得ながら地域や学校で福祉学習を行いました。

また、多可町内の学校・認定こども園・キッズランド等の福祉プログラムに対して助成を行いました。

《学校等団体への福祉学習》

	小学校	特別支援学校
今年度実施回数	5校 36回	0校 0回
前年度実施回数	5校 38回	1校 1回

実施団体	実施回数	内容
中町北小学校	9回	ボランティア学習、高齢者疑似体験、車いす体験、手話体験、手話歌学習、
中町南小学校	6回	点字体験、アイマスク体験、
杉原谷小学校	6回	サウンドテーブルテニス体験、
松井小学校	9回	地震から身を守る学習、
八千代小学校	6回	講師へのお礼の音声収録、福祉学習調査隊

《学校・認定こども園・キッズランド等の福祉プログラムの助成》

	助成団体数	助成額
今年度助成実績	14団体	685,000円
前年度助成実績	15団体	750,000円

助成団体	助成額	内容
北はりま特別支援学校	35,000 円	プランター寄贈交流事業
多可高等学校	50,000 円	ちいきふれあいプロジェクト等
中町中学校	50,000 円	楽譜の購入等
中町北小学校	50,000 円	福祉学習
中町南小学校	50,000 円	福祉学習、学習のまとめ
四恩こども園	50,000 円	曾我井グラウンドの整備
杉原谷小学校	50,000 円	福祉学習
松井小学校	50,000 円	福祉学習
キッズランドかみ	50,000 円	運動会、さつまいも苗植え、いも掘り等
八千代中学校	50,000 円	教本、感染予防物品の購入等
八千代小学校	50,000 円	福祉学習
キッズランドやちよ	50,000 円	さつまいも栽培、収穫祭、運動会等
ちびっこランドらくえん	50,000 円	夏野菜等栽培交流、地域の人との交流等
子育てふれあいセンター	50,000 円	親子遊び、わくわく交流会等

財源	共同募金配分金
----	---------

■ 重点

■生活支援体制整備事業（活動目標1／きづく、活動目標2／つながる）

生活の中での課題や困りごとを、住民相互の関わり合いの中から解決していくことを目的に、集落における協議体の設置を推進しました。また、事業についてまとめた情報を「つながる“わ”」と題し、社協だより多可に掲載し、啓発をしました。さらに、「つながる“わ”」は特別号としての啓発チラシも作成し、協議体登録者や区長に配布しました。

協議を進めている集落が抱える課題に対して、その解決に向けた取り組みを具現化するための研修会は新型コロナウイルス感染予防のため開催できませんでしたが、集落での話し合いに有効な宝物マップ作りをDVDに収録し、令和3年度に協議体登録者や区長に配布することで啓発をします。

《集落における協議体設置の推進》

今年度	
協議体登録集落	6集落（天田、丹治、西山、市原、的場、中三原）

今年度	
協議体づくりの依頼件数	161件
協議体運営支援件数	14件

	今年度	前年度
実施回数	16回	6回

実施集落等	実施回数	内容
中町北小学校区	門前	1回
	東山	1回
中町南小学校区	中安田	2回
杉原谷小学校区	清水	1回
	西山	1回
	丹治	1回
松井小学校区	熊野部	1回
	的場	2回
	山野部	1回
八千代小学校区	大屋	1回
	中三原	1回
	上三原	1回
その他	多可町消防団	1回
	自助活動グループ	1回

集落における協議体（話し合いの場）づくりや支え合い活動を進めるための支援

財源

町受託金

■生きがい活動支援通所事業の実施（活動目標1／きづく、活動目標2／つながる）

町からの受託事業として、在宅で生活しているおおむね65歳以上の高齢者が家に閉じこもりがちにならないよう、集落の公民館等で地域介護予防講座を開催し、「いきいき百歳体操」の普及啓発を行うことによって、心身機能の維持向上に努めました。

利用料	公民館等（無料）／春蘭荘（200円）
開催場所	集落公民館等

今年度実施回数	66回（中区 15回、加美区 40回、八千代区 11回）
前年度実施回数	108回（中区 40回、加美区 45回、八千代区 23回）
今年度参加者数	1,096名（中区 251名、加美区 713名、八千代区 132名）
前年度参加者数	2,213名（中区 874名、加美区 937名、八千代区 402名）

財源 町受託金、利用料

※4月～5月、12月上旬～2月は新型コロナウイルス感染予防のため延期、中止としました。

■特別支援学校への支援（活動目標1／きづく）

障がいや特別支援学校を地域の人に理解してもらうため、学校行事の際にボランティアの派遣をし、さつまいもの苗植えや芋掘り、クリーンキャンペーンを通した交流を行う予定でしたが、全て、新型コロナウイルス感染予防のため中止となり、ボランティア派遣ができませんでした。

今年度実施回数	新型コロナウイルス感染予防のため中止
前年度実施回数	3回（33名派遣）

■社協だより多可、たかテレビ等による情報発信（活動目標1／きづく）

社協だより多可、ホームページは、「見やすく」「分かりやすく」、タイムリーな情報提供ができるよう工夫しています。また、Twitter（ツイッター）、Facebook（フェイスブック）も利用し情報がより多くの住民に届くよう努めました。

さらに、たかテレビの『あっ！たかインフォ』などを活用し、社協活動を積極的にPRしました。

媒体	今年度発信回数	前年度発信回数
社協だより多可	12回	12回
社協ホームページ	46回	45回
Facebook、Twitter	174回	296回
たかテレビ「あっ！たかインフォ」	12回	12回

《たかテレビ「あっ！たかインフォ」で放送したもの》

- ・学校向け福祉学習
- ・地域福祉推進委員会
- ・社協ガイド
- ・地域福祉推進計画
- ・社協会費
- ・多可町社協クイズ

- ・赤い羽根共同募金
- ・歳末助け合い募金
- ・福祉機器・福祉車貸出
- ・多可町社協クイズ（パート2）
- ・ボランティア募集
- ・地域福祉活動助成事業

財源	社協会費、介護保険事業繰入、善意銀行
----	--------------------

■社協ガイドの作成、福祉懇談会（住民座談会）の開催（活動目標1／きづく）

社協活動や事業を地域の方に理解してもらうために社協ガイドを作成し、全戸配布しました。また、9月の民生委員・児童委員協議会各支部において社協ガイドの説明を行いました。

財源	社協会費
----	------

■介護者だよりの発行（活動目標1／きづく）

介護に役立つ情報や介護者の会の活動をお知らせするために「介護者だより」を毎月発行し、町内の介護者に配布しました。

《介護に役立つ情報（介護のポイント）に掲載したもの》

- | | |
|------------------|---------------|
| ・多可町介護者の会の紹介・報告 | ・簡単なストレッチの紹介 |
| ・熱中症クイズ（問題編・解説編） | ・口腔体操 |
| ・介助者のための暮らしのヒント | ・免疫力を高めるためには？ |
| ・レシピ紹介（おせち調理） | ・腰痛予防の体操 |
| ・ストレスを軽減するためには？ | |

財源	共同募金配分金
----	---------

■社協まつりの開催（活動目標1／きづく、活動目標2／つながる）

福祉についての理解と関心を高め、地域の支え合い・助け合い、福祉のまちづくりについて考える機会とするため、地域住民や各種団体・関係機関等と連携し開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止としました。

開催予定日	7月26日（日）
開催予定場所	ベルディ一ホール

財源	共同募金配分金、介護保険事業繰入、善意銀行
----	-----------------------

新規

■新型コロナウイルス感染症防止対策生活支援事業（活動目標4／ささえる）

多可町の各世帯に対し、生活支援として指定収集袋（ごみ袋）のセット（可燃ごみ袋用中2個、容器包装プラ・ペットボトル兼用中1個）を6,301世帯に配布しました。

財源	共同募金配分金、善意銀行
----	--------------

重点

■各種ボランティア養成講座、研修会等の開催（活動目標1／きづく）

ボランティアの育成やスキルアップ、またボランティア相互の交流を図るために、各種講座や研修会、交流会を開催しました。講座等ではアンケートなどを実施し、ボランティア依頼や次回講座のための参考にします。

今年度開催回数／延べ参加人数	3種 15回 延べ 57名参加
前年度開催回数／延べ参加人数	6種 17回 延べ175名参加

内容	開催日	延べ 参加者数	開催場所
点訳ボランティア養成講座	6月20日～ 12月5日	24名	播磨内陸生活文化総合 センター（ドウジアム）
傾聴ボランティア養成講座	11月25日 12月2日	14名	社協本部
ボランティア交通安全教室	11月17日	19名	八千代プラザ
介助ボランティア養成講座 (車いす・ガイドヘルプ)	たかテレビで収録した内容を令和3年度に放送 (収録は令和2年度に済み)		

※介助ボランティア養成講座（車いす・ガイドヘルプ）は、新型コロナウイルス感染予防のため中止としました。その代わりにボランティアの協力を得て、車いす介助・ガイドヘルプの方法をたかテレビで収録し、令和3年度に放送することになりました。

※発達障害者支援ボランティア養成講座、リスナーとボランティアのつどい、ボランティア研修会は、新型コロナウイルス感染予防のため中止としました。

財源	県社協補助金、県社協受託金、介護保険事業繰入、善意銀行
----	-----------------------------

■ボランティアに関する相談・コーディネート・支援

（活動目標1／きづく、活動目標3／ささえあう）

ボランティアセンターにおいて、活動に関する相談の受付、調整、支援を行っています。

活動内容	事業名（依頼先）	今年度 派遣 回数	今年度 延べ 派遣 人数	前年度 派遣 回数	前年度 延べ 派遣 人数
調理・配達・回収	ふれあい型給食サービス	19回	393名	95回	900名
交流	障がい者の事業所と ボランティアの交流	23回	60名	44回	210名
訪問	地域見守り訪問	16回	41名	73回	183名
介助	青い鳥学級	3回	11名	25回	82名
託児	健康診断、出前相談	4回	7名	27回	75名
運転	外出支援サービス	218回	218名	193回	221名
運転・介助	買い物ツアーペルソナル 多可赤十字病院	72回	187名	95回	314名
傾聴	在宅傾聴訪問	8回	16名	58回	110名

音訳	朗読CD・テープの貸出	48回	360名	48回	336名
レクリエーション	一	0回	0名	62回	126名
行事手伝い	多可町介護者の会 クリスマス親子 コンサート	6回	15名	13回	70名
補助	学校向け福祉学習 元気あっぷ広場	33回	60名	32回	83名
合計		450回	1,368名	765回	2,710名

※傾聴ボランティア活動の4月～9月、1月中旬～3月は、新型コロナウイルス感染予防のため中止としました。

■重点

■ふれあいいきいきサロン活動の支援(活動目標1／きづく、活動目標2／つながる)

地域住民が気軽に集まり、つながりと生きがいを持ちながらお互いに助け合い、誰もが地域でいきいきと安心して暮らすことを目指し、活動経費の一部助成、サロンスタッフ研修会の開催、レクリエーション遊具の貸出、サロンに関する各種相談など、サロンへの支援を行い、多くの地域でサロンが開催されるよう努めました。

また、定期的にサロンスタッフのためのサロン（スタッフサロン）を開催し、気軽に情報交換できる場を作りました。サロンへの助成については、年4回以上実施計画サロンへの助成（20,000円）と年2～3回実施計画サロンへの助成（5,000円）を行いました。

内容	回数	参加者数	開催場所
スタッフサロン	2回	20名	社協本部
サロンスタッフ研修会	感染症対策を収録し、ホームページで公開		

※4月、1月開催予定のスタッフサロンは、新型コロナウイルス感染予防のため中止としました。

※サロンスタッフ研修会は、新型コロナウイルス感染予防のため、「感染症予防」と題した研修を収録し、ホームページで公開しました。

	サロン数	実施回数	活動助成件数	地域応援事業利用件数
今年度実績	37地区	86回	37件	2件
前年度実績	47地区	310回	47件	12件

財源	社協会費
----	------

■一人暮らし高齢者のつどい（虹のつどい）の開催（活動目標2／つながる）

70歳以上の人暮らし高齢者とボランティア、民生委員児童委員との交流・情報交換を目的に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止とし、対象者446名に対し、おじいちゃんおばあちゃん絵画展の作品を掲載したハガキを送り、閉じこもりがちな方に対して、気分転換を促すことにより、コロナ禍により沈んだ心を前向きにする一助としました。

拡充

■障がい者の事業所とボランティアの交流（活動目標1／きづく、活動目標2／つながる）

交流を通して、障がいや事業所への理解を地域に深めました。令和2年度は、町内9つの事業所や多可町作業所連絡会を対象に広げ、申請に対して助成を行う方法に変更をしました。

	助成額	実施回数	参加ボランティア数
一般社団法人S-CUBE	60,000円	10回	20名
NPO法人みどり会	60,000円	10回	27名
NPO法人やちよ	60,000円→11,042円	3回	13名
多可町作業所連絡会	100,000円→全額返金	—	—

財源	共同募金配分金
----	---------

■ハートフルツアーの開催（活動目標1／きづく、活動目標2／つながる）

身体・知的・精神障がい者を対象に、社会参加や親睦・交流を図ることを目的として開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止としました。

■子育て支援活動助成事業の実施（活動目標2／つながる）

子育てふれあいセンターが実施する子育て親子の交流事業が充実することを目的として、助成を行いました。

財源	歳末たすけあい募金配分金
----	--------------

新規

■子育て応援クリスマスプレゼント事業の実施（活動目標3／ささえあう）

多可町の提唱する「子育てるなら多可町」を推し進め、子育て世帯のリフレッシュを目的に、新生児の生まれた世帯に対しクリスマスプレゼントを配布しました。

	申請者数	配布者数
今年度実績	62名	56名

財源	歳末たすけあい募金配分金
----	--------------

■視覚障がい者への支援（活動目標1／きづく、活動目標2／つながる）

視覚障がい者の情報保障として、社協だより多可、広報たか、議会だよりなどを朗読CD・テープへ吹き込み、視覚障がいのある希望者へ毎月届けました。また、多可町図書館にも貸出用として設置し、希望者への貸出を行いました。

	利用者数	延べ発送件数
今年度実績	11名	121件

前年度実績	11名	125件
-------	-----	------

■障がい者スポーツ大会の開催（活動目標1／きづく、活動目標2／つながる）

町からの受託事業として、身体・知的・精神障がい者が、お互いの交流と親睦を深め、障がい者の社会参加意欲の高揚と体力の維持増進を図ることによって、障がい者の自立更生に寄与するとともに、スポーツを通じ住民の障がい者に対する理解と認識を深め、ともに生きる地域社会づくりを目指すことを目的として開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止としました。

開催予定日	10月24日（土）
開催予定場所	アスパル
財源	町受託金

■福祉団体の事務および活動支援（活動目標2／つながる）

老人クラブ連合会や身体障害者福祉協会、手をつなぐ育成会、遺族会、ボランティア連絡会、介護者の会の事務局として、各種団体の運営・活動支援を行いました。

■地域見守り訪問事業の推進（活動目標1／きづく、活動目標3／ささえあう）

敬老の日発祥の町多可町として敬老の精神を広めるために、80歳以上の一人暮らし高齢者を対象に、ボランティアや地域福祉推進委員が誕生日に訪問し、健康と長寿のお祝いに花を届けました。また、必要に応じて、日常生活の中での不安や困りごとなどを聞き取り、適切なサービスや関係機関につなげました。

	中区	加美区	八千代区	合計
今年度訪問者数	115名	62名	58名	235名
前年度訪問者数	116名	66名	61名	243名

※4月～9月、1月中旬～2月の訪問は、新型コロナウイルス感染予防のため、職員が玄関先に花を届けた後、電話で困りごと等の聞き取りを行いました。

財源	共同募金配分金
----	---------

■地域福祉活動助成事業の推進（活動目標3／ささえあう）

町内の地域福祉の推進を図ることを目的とした団体・グループに助成を行うことで、住民主体の地域福祉活動の充実・活性化を図り、みんなが安心して暮らせるまちづくりを進めました。また、今年度は助成団体の活動内容を社協だより多可やたかテレビなどで紹介し、活動の支援や周知を図りました。

	団体数	助成額
今年度実績数	6団体	240,000円
前年度実績数	7団体	250,000円

助成団体	助成額
西脇点訳友の会	30,000円
八千代交流広場推進協議会	50,000円
いこいの家 紫陽花	30,000円
ちょいボラグループ やちよお助け隊	50,000円
多可町介護者の会	30,000円
たか手話サークル	50,000円

財源	共同募金配分金
----	---------

■福祉機器貸出事業の実施（活動目標4／ささえる）

在宅で介護を要する人を対象に、福祉機器を無料で貸し出し、在宅での療養生活の利便を図りました。要介護者や身体障がいの方については、介護保険サービス、日常生活用具給付事業及び補装具費支給事業を優先します。

貸出品名	介護用ベッド	車いす・スロープ
貸出最長期間	3ヶ月間	6ヶ月間

	介護用ベッド	車いす	スロープ
今年度貸出件数	0件	75件	4件
前年度貸出件数	1件	76件	1件

財源	社協会費
----	------

■福祉車貸出事業の実施（活動目標4／ささえる）

車いすやストレッチャーを使用しないと外出できず、かつ家庭において運転ができる家族がある人を対象に、福祉車を貸し出し、医療・保健・福祉等の利用の便を図りました。

	中区	加美区	八千代区	合計
今年度登録者数	15名	14名	8名	37名
前年度登録者数	17名	11名	4名	32名
今年度利用件数（町内）	22件	18件	21件	61件
前年度利用件数（町内）	22件	29件	6件	57件
今年度利用件数（町外）	19件	23件	16件	58件
前年度利用件数（町外）	24件	14件	13件	51件

財源	社協会費
----	------

■ふれあい型給食サービス事業の実施（活動目標4／ささえる）

調理が困難で見守りが必要なおおむね65歳以上の高齢者のみの世帯等を対象に、ボランティアが調理した給食を届けました。地域包括支援センターや民生委員児童委員などと連携を図るとともに、見守りシートの回収を通して、利用者の健康状態や不安の把握など見守り活動を促進しました。

	中区	加美区	八千代区
調理場所	中プラザ	交流会館	八千代プラザ
実施日	毎週木曜日		
利用料／食	200円		
今年度実施回数	48回		
前年度実施回数	49回		

	中区	加美区	八千代区	合計
今年度登録者数	47名	30名	18名	95名
前年度登録者数	54名	39名	19名	112名
今年度配食数	1,735食	1,015食	775食	3,525食
前年度配食数	1,701食	1,133食	725食	3,559食
今年度調理ボランティア数	38名	41名	36名	115名
前年度調理ボランティア数	99名	107名	87名	293名
今年度配送・回収ボランティア数	61名	76名	141名	278名
前年度配送・回収ボランティア数	190名	166名	251名	607名

※4月16日～9月24日、1月21日～3月11日は、新型コロナウイルス感染予防のため、業者による弁当を職員が配布し、見守りシート回収の代わりに、職員による電話での見守り活動を行いました。

財源	共同募金・歳末たすけあい募金配分金、利用料
----	-----------------------

■買い物ツアー事業の実施（活動目標4／ささえる）

外出しにくい、おおむね75歳以上の高齢者のみの世帯を対象に、区ごとに毎月1回、町内での買い物のための送迎と介助を行いました。

	中区	加美区	八千代区
実施日	毎月第3火・水曜日	毎月第4火・水曜日	毎月第2火・水曜日

	中区	加美区	八千代区	合計
今年度実施回数	14回	14回	16回	44回
前年度実施回数	24回	24回	23回	71回
今年度登録者数	12名	18名	12名	42名
前年度登録者数	18名	18名	14名	50名

今年度利用者数	50名	71名	76名	197名
前年度利用者数	83名	104名	106名	293名
今年度ボランティア数	27名	52名	37名	116名
前年度ボランティア数	48名	62名	46名	156名

※4月21日～6月24日、1月19日～3月10日は、新型コロナウイルス感染予防のため中止としました。

財源	共同募金配分金
----	---------

拡充

■無料法律相談の実施（活動目標4／ささえる）

年12回、弁護士による無料法律相談を開催しました。また、年3回、町内有識者の協力を得て、調停等手続き相談を開催しました。

	無料法律相談	調停等手続き相談
開設月	毎月第4火曜日	10月、12月、3月
開設時間	午後1時～3時（1人30分）	午前10時～12時（1人30分）
開設場所	社協本部	社協本部

	無料法律相談	調停等手続き相談
今年度利用者数	39名	6名
前年度利用者数	35名	3名

財源	善意銀行
----	------

■外出支援サービス事業の実施（活動目標4／ささえる）

町からの受託事業として、おおむね65歳以上の高齢者のみの世帯で、家族に車の運転できる人がなく、一般の交通機関を利用する事が困難な人や下肢が不自由な人、視覚障がい者を対象に、医療機関等への送迎サービスを行い、在宅福祉の向上を図りました。

	中区	加美区	八千代区	視覚障がい者	合計
今年度登録者数	15名	9名	8名	6名	38名
前年度登録者数	20名	8名	8名	5名	41名

	中区	加美区	八千代区	合計
今年度利用件数（町内）	115件	23件	49件	187件
前年度利用件数（町内）	140件	19件	58件	217件
今年度利用件数（町外）	404件	178件	44件	626件

前年度利用件数（町外）	372件	227件	50件	649件
-------------	------	------	-----	------

財源	町受託金、日赤受託金、利用料
----	----------------

拡充

■資金貸付事業の実施（活動目標4／ささえる）

生活問題を抱える世帯への援助として資金を貸し付け、世帯の生活の安定と向上を図りました。生活福祉資金は県社協の受託事業として、また、法外援護資金は多可町社協独自の貸付事業として実施し、両事業とも、民生委員児童委員と連携しながら実施しました。

生活福祉資金では、令和2年3月25日より新型コロナウイルス特例貸付が追加され、実施しました（令和3年6月30日で受付終了の予定）。

《生活福祉資金・法外援護資金共通》

今年度相談件数	847件
前年度相談件数	92件

《生活福祉資金》

今年度貸付決定件数／合計貸付件数	114件／132件（他、償還済3件）
前年度貸付決定件数／合計貸付件数	4件／21件

財源	県社協補助金、県社協受託金
----	---------------

《法外援護資金》

今年度貸付決定件数／合計貸付件数	0件／5件
前年度貸付決定件数／合計貸付件数	1件／6件

財源	償還金、善意銀行
----	----------

■一時的食糧等給付事業（活動目標4／ささえる）

一時に経済難に陥った生活困窮者への支援として食糧等の生活に必要な現物の給付を行い、その世帯の自立を促し円滑な社会生活が送れるよう支援しました。多可町社協独自の事業として、民生委員児童委員と連携しながら実施しました。

	今年度	前年度
相談件数	44件	1件
利用件数	3件	1件
給付金額	12,377円	18,825円

財源	善意銀行
----	------

追加・新規

■食料品の配布（活動目標4／ささえる）

生活福祉資金の新型コロナウイルス特例貸付を受けられている世帯を対象に、生活協同組合コープこうべのハート基金拠出による食料品を9月に配布しました。

配布世帯数	29世帯
-------	------

追加・新規

■新型コロナウイルス特例米給付事業（活動目標4／ささえる）

新型コロナウイルスの影響を受け、就労収入が減少したことにより困っている世帯に対し、生活を支援するための特例事業として緊急的に2月に実施しました。申込み世帯に対し、1袋5kgの米を給付しました。

給付世帯数	46世帯
-------	------

財源	歳末たすけあい募金配分金
----	--------------

■日常生活自立支援事業の推進（活動目標4／ささえる）

県社協からの受託事業として、認知症高齢者や知的障がい者など判断能力が十分でない人を対象に、住み慣れた地域で安心して自立生活が送れるよう、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理などの援助を行いました。また、事業が地域により浸透するよう、サービス内容の周知に努めました。

利用料／時間	1,200円（交通費は実費負担）
--------	------------------

	今年度	前年度
相談件数	231件	155件
契約者数	7名	5名
派遣回数	58回	54回

財源	県社協受託金、利用料、善意銀行
----	-----------------

■ふとん丸洗いサービス事業の実施（活動目標4／ささえる）

布団が干しづらく、在宅で生活されている75歳以上の高齢者のみの世帯の要介護認定「要介護1～4」「要支援1～2」の方、要介護認定「要介護5」の方、身体障害者福祉手帳「1級」の方、家族介護用品給付事業で「おむつ」を申請されている方を対象に、利用者が使用している布団の丸洗いを行い、快適で衛生的な生活を支援しました。

利用者一人につき掛布団・敷布団・掛毛布・敷毛布をそれぞれ1枚ずつ、補助は1人7,000円までとし、超えた額は個人負担として行いました。

	回収日	返却日		
実施日	6月4日(火)、5日(水)	6月11日(火)、12日(水)		
	中区	加美区	八千代区	合計
今年度利用者数	22名	12名	5名	39名
前年度利用者数	17名	11名	7名	35名
今年度平均利用額	—	—	—	6,346円
前年度平均利用額	—	—	—	5,431円

	中区	加美区	八千代区	合計
今年度利用者数	22名	12名	5名	39名
前年度利用者数	17名	11名	7名	35名
今年度平均利用額	—	—	—	6,346円
前年度平均利用額	—	—	—	5,431円

財源	社協会費
----	------

■歳末慰問事業（活動目標4／ささえる）

歳末たすけあい募金を行い、要援護世帯や在宅で寝たきりや認知症の方など、新たな年を迎える時期に支援を必要とする方へ、民生委員児童委員協議会の協力を得ながら実施しました。

《個人慰問》

		中区	加美区	八千代区	配分額
A	生保受給世帯	17世帯	6世帯	3世帯	130,000円
B	準生保世帯	15世帯	8世帯	11世帯	204,000円
C	高齢者独居	44世帯	48世帯	35世帯	635,000円
D	高齢者世帯	11世帯	7世帯	14世帯	160,000円
E	母子世帯	20世帯	10世帯	10世帯	200,000円
F	父子世帯	0世帯	0世帯	1世帯	5,000円
G	寝たきり（在宅）	1世帯	2世帯	1世帯	20,000円
H	重度障がい者（在宅）	6世帯	3世帯	3世帯	60,000円
I	認知症（在宅）	0世帯	3世帯	0世帯	15,000円
合計		114世帯	87世帯	78世帯	1,429,000円

《施設慰問》

	施設名	配分額
NPO法人	あきら多可	50,000円
	すまいる	50,000円
	c a m b i o	50,000円
	みどり会	50,000円
	ネクスト	50,000円
	やちよ	50,000円
	E s p o r t e	50,000円
合計		350,000円

財源

歳末たすけあい募金配分金

新規

■児童安全対策事業（活動目標4／ささえる）

新小学一年生に安全対策としてヘルメットを寄贈しました。

寄贈数

126名

財源

善意銀行

■介護事業（活動目標4／ささえる）

事業所名	事業内容	今年度	前年度
居宅介護支援事業 (ケアプラン)	ケアプラン件数	2,100件	2,131件
	介護予防プラン件数	276件	294件
	認定調査件数	60件	127件
	実態把握件数	69件	31件
	認知症相談センター相談件数	16件	29件
	認知症初期集中支援チーム参加回数	11回	11回
通所介護事業 (デイサービス)	稼働日数	310日	314日
	延べ利用者数	7,631名	7,547名
	1日あたり利用者数	24.6名	24.0名
	転倒予防教室	25回	36回
生きがい活動支援通所事業	延べ利用者数	130名	137名
毎日給食サービス事業	延べ配食数／利用者数	169食/2名	154食/3名
生きがい発揮事業	延べ利用者数／回数	中止	71名/9回
訪問介護事業 (ホームヘルパー)	訪問介護回数	9,660回	10,491回
	訪問入浴回数	51回	56回
	障害サービス 回数	居宅	2,124回
		移動	168回
		同行(ガイド)	144回
	軽度生活支援回数	97回	86回
	養育支援回数	294回	30回
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	計画相談件数	27件	26件
	入居率(入居者数/日)	8.5名	7.7名
	グループホーム運営推進会議	6回	6回

■地域福祉推進委員会の機能強化（組織強化）

住民が主体となり、みんなが安心して暮らせるまちづくりを進めるため、地域福祉推進委員会の開催を支援しました。地域福祉推進委員は、住民の代表で構成されています。

	開催回数	内容
合同会議	1回	地域福祉の必要性や地域福祉推進委員の役割についての研修
中支部地域福祉推進委員会	2回	障害者施設への取材について
加美支部地域福祉推進委員会	4回	これから のテーマについて これまでの学習会をふまえた今後の取り組み方について 当事者との交流会について
八千代支部地域福祉推進委員会	1回	令和2年度の取り組みについて 地域見守り訪問について

財源	社協会費
----	------

■災害救援マニュアルの推進（組織強化）

多可町防災訓練への協力・・・福祉車両を2台貸出

■地域福祉推進計画の策定（組織強化）

第4次地域福祉推進計画の策定のため、策定委員会と職員によるワーキングチームを立ち上げ、策定を行いました。

	開催回数
策定委員会	4回
ワーキング	4回

財源	社協会費
----	------

■職員会議の開催（組織強化）

定期的に職員会議を開催し、職員間での情報共有を図り、社協活動のスムーズな運営体制を築いています。

- ・開催回数 3回 (9/25、12/23、3/26)

※6月26日の職員会議は、新型コロナウイルス感染予防のため中止としました。

■職場内外研修会の実施と参加（組織強化）

職場内では、職員会議と兼ねて勉強会を実施し、職員の資質向上に努めました。

職場外では、各種研修会に積極的に参加し、職員のスキルアップと他市町とのネットワークづくりに努めました。

■関係機関との連携強化、情報共有（組織強化）

情報共有による効率的な事業展開を図るため、関係機関との連携強化、情報の発信と受信、定期的な連絡・調整会議を開催しました。事業連携推進会議、多可町地域共生推進協議会、地域ケア会議やケース検討会などの専門機関会議へ参加しました。

※地域包括ケアネットワークミーティングは、開催に向けて9月に各事業所の協力を得てアンケートを行った結果、12月に生活支援記録法「F-SOAI P（エフ ソ アイピー）」の研修会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止となりました。

■社協会員への協力依頼（組織強化）

一般会員・賛助会員・団体会員で組織された会員制度を広く周知し、会員加入の促進を図りました。

	今年度	前年度
一般会費	5,550,000円	5,583,000円
賛助会費	294,000円	309,000円
団体会費	90,000円	90,000円
合計	5,934,000円	5,982,000円

■財源確保と情報公開（組織強化）

多様性に富んだ福祉事業を展開するため、社協だより多可やチラシなどで会費・共同募金等の啓発活動を行っています。共同募金配分金や善意銀行預託金の有効活用の検討を行い、使途の明確化を図っています。受託事業については、事業に見合う適正な委託金を行政へ要望し、介護事業収入については、町全域への介護事業の展開により増収を図っています。

・赤い羽根共同募金（組織強化）

	今年度	前年度
配分額	3,715,000円	3,772,000円

・歳末たすけあい募金（組織強化）

	今年度	前年度
配分額	2,955,998円	2,846,625円

・善意銀行（組織強化）

	今年度	前年度
金銭預託件数／金額	78件／1,712,139円	96件／1,424,291円
物品預託件数／内容	3件／商品券・マスク	2件／固形石けん、タオル

■理事会・評議員会等の開催と研修会の実施（組織強化）

- | | |
|--------------|------------------------------|
| ・理事会 | 3回(6/9、12/8、3/17) |
| ・評議員会 | 3回(6/25、12/16、3/25) |
| ・正副会長会 | 5回(5/13、5/28、9/24、12/2、3/12) |
| ・評議員選任・解任委員会 | 2回(6/11、12/8) |

■その他

- ・「トライやる・ウィーク」の受け入れ…新型コロナウイルス感染予防のため実施形態が変更となつたため、受け入れなし。
- ・ソーシャルワーク（相談援助）実習生の受け入れ…神戸医療福祉大学学生1名（8/17～9/16）
- ・介護支援専門員実習生の受け入れ…1名（11/10・11/11）
- ・社協コロナウイルス感染症防止対策会議等周知…10回

○職員対応

緊急事態宣言等を受けた後、職員対応を2班に分け時間差の出勤とし、2時間は在宅勤務を行いました。（令和2年4月22日～5月29日まで）

全職員は、手洗い、うがいの励行、マスクの着用、出勤前に体温検測、出勤時に職員体温記録表に記載の徹底を行いました。

○介護事業課（各事業所）

利用者及び入居者の体調の確認と管理を徹底し、毎朝の検温・マスクの着用・対面食事の中止・1ケア1消毒・交流事業の中止等、感染予防対策をしながらサービス提供を行いました。